

「大丈夫」のコミュニケーション上の特質

——語用論の観点からの分析——

遠藤李華（創価大学大学院生）

要 旨

本研究は、用法が拡張し、従来の意味と相違して用いられるようになってきている「大丈夫」という言葉について、語用論の観点から分析を行い、コミュニケーション上の特質を明らかにすることを目的とする。「大丈夫」を発話機能別に分類し、各機能の「大丈夫」をどの程度使用していると認識しているか意識調査を実施した。調査の結果、「大丈夫」は、文脈上にある心配要素を否定する文脈否定語であるため、相手の心的負担となる心配要素が大きい機能の場合に用いられやすいことがわかった。そして、そのような心配要素を否定することで、相手に配慮しているのである。

キーワード：「大丈夫」、文脈否定、ポライトネス、発話機能、配慮表現

1. はじめに

近年「大丈夫」という言葉は、用法が拡張し、多様な機能を担うようになってきた。「大丈夫」は本来「立派な男子」という意味を表す名詞だったものが、「しっかりしているさま、危なげがなく安心できるさま」を表す形容詞としての用法を獲得し、現在は「問題ない、心配ない」と言う意味でも用いられるようになった。さらに最近は、「レシートは大丈夫ですか（＝ご利用ですか）」「コーヒーで大丈夫ですか（＝よろしいですか）」のように従来の意味と相違して用いられるようになってきている。こうした用法は一部の辞書でも言及されており、『大辞泉』第二版（2012）には「必要または不要、可または不可、諾または否の意で相手に問いかける、あるいは答える用法が増えてきている」という説明がみられた。本稿では、このような「大丈夫」の多様な機能について、語用論の観点から分類、分析したうえでコミュニケーション上の特質について検討することを目的としている。そこで、本稿では、次の2点を中心に論じる。

- I. 「大丈夫」がどのような発話機能において用いられているのか
- II. 新たな用法の「大丈夫」はどの程度使用されているのか

2. 先行研究

「大丈夫」の新たな用法をめぐっては、使用意識や印象についてアンケート調査などがこれまでいくつか行われてきた。例えば、塩田・井上・滝島（2015）では「おかわりは大丈夫ですか」といった提供の場面、尾崎（2016）では「ソースをかけても大丈夫？」と尋ねる場面および「(店員からお茶のおかわりを勧められて)大丈夫です」と断る場面、菊池（2018）では、「(店員からお箸をつけるかどうか聞かれて)大丈夫です」と断る場面について、使用頻度を調査している。また、山下（2013）、竹下（2014）は「大丈夫」が発話される多種多様な場면을挙げ、「大丈夫」の用法について考察している。以下は、山下（2013）

と竹下（2014）の「大丈夫」の機能分類である。

山下（2013）：

【相手のニーズを尋ねる】【相手の都合を尋ねる】【相手の状況の良し悪しを尋ねる】
【自分の不都合がないか尋ねる】【自分の要求に対する許可を願う】【断り】

竹下（2014）：

〈許可求め〉〈許可求め－許可〉〈依頼〉〈依頼－許可〉〈誘い－承諾〉〈誘い－断り〉
〈申し出－断り〉〈勧め－断り〉

しかし、塩田・井上・滝島（2015）、尾崎（2016）、菊池（2018）の研究は、検証している用法が限定的なものであり、調査が不十分であると考えられる。また、山下（2013）の機能は、応答における「大丈夫」が【断り】の1つのみであり、網羅的とは言えない。『大辞泉』第二版（2012）にもあるように、応答としての「大丈夫」は「断り」だけではなく「可能」や「承諾」の意味でも用いられると言える。山下（2013）と竹下（2014）が挙げた機能以外にも、感謝や謝罪に対する応答の「大丈夫」など、他にも機能があるのではないかと考えられる。そこで、本稿では多種多様な機能を設定し、「大丈夫」のどのような機能が、どの程度使用されているのか明らかにしていきたい。

3. 「大丈夫」の示唆するもの

「大丈夫」の機能を検討するに先だって、まず「大丈夫」という言葉がもつ本質について明らかにしておきたい。そして、「大丈夫」が多用される要因について考察する。

3.1. 「大丈夫」の本質：文脈否定

「大丈夫」の本質的機能は、単独で意味をなさず、文脈上にある心配事や問題となる要素を否定する「文脈否定」であると言える。たとえば、「この建物は丈夫です」は単独で成立しているが、「この建物は大丈夫です」という文は単独では成立しない。それは、「地震がきても」や「何年経っても」など、文脈上にある心配要素を意味的に「問題ない」と否定する形で「この建物は大丈夫です」が使われるからである。

3.2. 「大丈夫」が用いられる要因：ポライトネス

新しい用法の「大丈夫」は、相手に対する配慮として用いられていると考える。そこで、Brown, P. & Levinson, S.（以下、B&L）のポライトネス理論を援用し、配慮として用いられる「大丈夫」について理解を図る。B&L（1987）は、人はだれでも、「他者に受け入れられたい、好かれたい」という欲求（＝ポジティブフェイス）と、「自分の領域を他者に邪魔されたくない」という欲求（＝ネガティブフェイス）を持っているという。そして、大抵のコミュニケーションにおいて、これらの欲求を脅かす行為を行っており、これを「フェイス脅かし行為（Face-threatening act 以下、FTA）」と呼んでいる。そこで、人はなるべくフェイスを脅かさないように配慮した言語行動「ポライトネス」を行う。ポジティブフェイスに配慮した補償行為がポジティブポライトネス、ネガティブフェイスに配慮するのがネガティブポライトネスである。

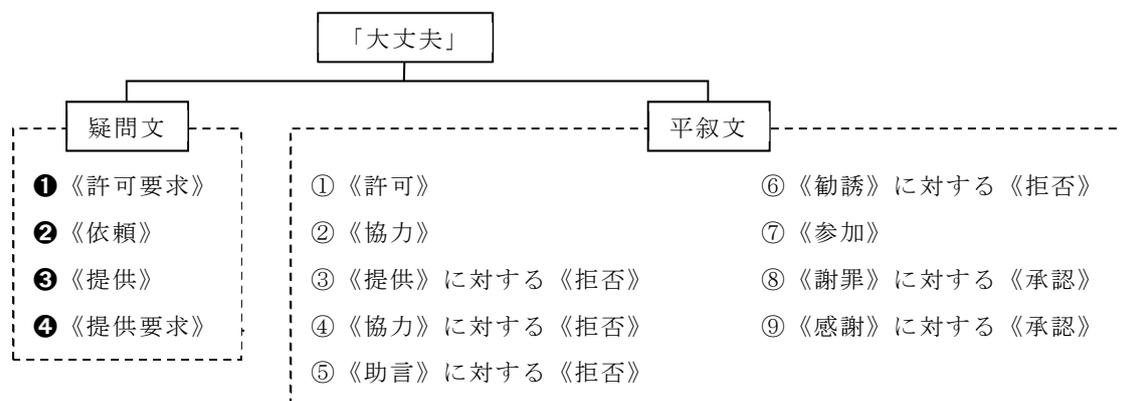
近年見られる「大丈夫」は、FTAを行わないように配慮する、ポライトネスとして用いられている場合があると言える。たとえば、Aが手伝いを申し出て、Bがそれを断る場合、Bの断りは、手伝いを申し出たAの好意を無下にすることになり、Aのポジティブフェイスが脅かされる。さらに、Aの手伝うという行為が妨げられたことでAのネガティブフェイスも脅かされる。そこで、ポライトネスとして「(気遣っていただかなくても)大丈夫」を用いて断ることで、BはAの心的負担を軽減することができるのである。近年、このような配慮の気持ちからポライトネスとして「大丈夫」を用いる人が増え、多用されるようになったのではないか。

「大丈夫」は、大きな心配事や問題を否定しているだけでなく、「相手に失礼かも」「相手に迷惑をかけるかも」といった心的負担まで心配要素や問題として捉え、それを否定している。そのため、心配要素が、従来の程度より薄い場面においても用いられていると言えるのである。さらに、そのような心的負担を「大丈夫」で否定することで、相手に配慮しているのである。

4. 発話機能による分類

山岡(2008)の発話機能を参考に、近年見られる「大丈夫」が、どのような場面や用法で用いられているのか発話機能別に分類し、「大丈夫」が持つ機能の意味特徴を分析した。発話機能とは「話者がある発話を行う際に、その発話が聴者に対して果たす対人的機能を概念化したもの」(山岡 2008:2)を言う。図1は「大丈夫」の発話機能における分類を図式化したものである。

図1 「大丈夫」の発話機能における分類



次に、文脈否定とポライトネスの観点から「大丈夫」の発話機能の用例を一つ一つ分析していく。ただし、ここでの機能分類には、辞書に記載されている一般的な用法「危ない」「しっかりしている」を含めないものとする。なお、用例は筆者が見聞きしたものか筆者の作例である。(下線は筆者によるものである。)

① 《許可要求》

(1) (友人に対して) ペンを借りても大丈夫？

[言い換え] ペンを借りても問題ないか

[文脈否定] 「ペンを貸せないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

[ポライトネス] 聴者に《許可》をさせるため、それが聴者に負担をかける (聴者の NFTA⁽¹⁾)

聴者が《許可》しなければ、話者をがっかりさせてしまう (聴者の PFTA⁽²⁾)

② 《依頼》

(2) (通りすがりの人に対して) すみません、写真撮ってもらっても大丈夫ですか。

[言い換え] 写真を撮ってもらっても問題ないか

[文脈否定] 「撮影が負担になるかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

[ポライトネス] 聴者に《協力》をさせるため、それが聴者に負担をかける (聴者の NFTA)

聴者が《許可》しなければ、話者をがっかりさせてしまう (聴者の PFTA)

③ 《提供》

(3) (店員が客に対して) コーヒーのおかわりは大丈夫ですか。

[言い換え] コーヒーのおかわりは必要ないか (おかわりを出さなくても問題ないか)

[文脈否定] 「おかわりしたくないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

[ポライトネス] 話者が聴者に聞く行為が聴者にとって負担となる (聴者の NFTA)

④ 《提供要求》

(4) (客が店員に対して) 保冷剤つけてもらっても大丈夫ですか。

[言い換え] 保冷剤をもらっても問題ないか

[文脈否定] 「つけてもらえないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

[ポライトネス] 聴者に《提供》をさせるため、それが聴者の負担となる (聴者の NFTA)

聴者が《提供》をしなければ話者をがっかりさせてしまう (聴者の PFTA)

① 《許可》

(5) (友人の料理が先に届いたとき) 先に食べても大丈夫だよ。

[言い換え] 先に食べても問題ない

[文脈否定] 聴者の「先に食べたら失礼かもしれない」という心配要素を否定している

[ポライトネス] 《許可》は相手に借りを背負わせるため、聴者の負担となる (聴者の NFTA)

② 《協力》

(6) (わからない問題を教えてほしいという友人に) 大丈夫だよ。

[言い換え] 相手が分からないという問題を教えても、自分は問題ない

[文脈否定] 聴者の「負担になるかもしれない」という心配要素を否定している

[ポライトネス] 教えることで、聴者に借りを背負わせる (聴者の NFTA)

③ 《提供》に対する《拒否》

(7) (飲み物を勧める店員に) 大丈夫です。

[言い換え] 飲み物の提供を受けなくても問題ない (= 飲み物は必要ない)

[文脈否定] 聴者の「飲み物がほしいかもしれない」という心配要素を否定している

[ポライトネス] 《提供》を受け入れないため、聴者をがっかりさせてしまう（話者の P FTA）
《提供》を受け入れてもらえなかったと感じる（聴者の P FTA）
仕事の一環として行った《提供》が成立できなかった（聴者の N FTA）

④ 《協力》に対する《拒否》

(8) (手伝おうとする駅員に) あ、大丈夫です。
[言い換え] 手伝わなくても問題ない (= 手伝う必要はない)
[文脈否定] 聴者の「手伝った方がいいかもしれない」という心配要素を否定している
[ポライトネス] 《協力》を受け入れないため、聴者の好意を無下にしてしまう（話者の P FTA）
《協力》を受け入れてもらえなかったと感じる（聴者の P FTA）
《協力》したいという気持ちを邪魔された（聴者の N FTA）

⑤ 《助言》に対する《拒否》

(9) (勉強した方がいいと言う友人に) いや、大丈夫、大丈夫。
[言い換え] 勉強しなくても問題ない (= 勉強する必要はない)
[文脈否定] 聴者の「勉強した方がいいかもしれない」という心配要素を否定している
[ポライトネス] 《助言》を受け入れないため、聴者を嫌な気持ちにさせてしまう（話者の P FTA）
《助言》を聞いてもらえなかったと感じる（聴者の P FTA）
《助言》を妨げられたという（聴者の N FTA）

⑥ 《勧誘》に対する《拒否》

(10) (友人に映画に誘われて) あー、私は大丈夫だよ。
[言い換え] 映画を見に行かなくても問題ない、相手が自分を誘わなくても問題ない
[文脈否定] 聴者は話者が「見に行きたいかもしれない」という心配要素を持っていると想定し、その想定を否定している
[ポライトネス] 《勧誘》に応えられないため、聴者をがっかりさせてしまう（話者の P FTA）
《勧誘》を断られてしまったと感じる（聴者の P FTA）
「映画を見る」という行為を話者と出来なくなった（聴者の N FTA）

⑦ 《参加》

(11) (友人に食事に誘われて) うん、大丈夫だよ。
[言い換え] 一緒に映画を見に行っても私は問題ない
[文脈否定] 聴者は話者が「見に行けないかもしれない」という心配要素を持っていると想定し、その想定を否定している
[ポライトネス] 「自分の都合に合わせてしまう」という借りを背負わせる（聴者の N FTA）

⑧ 《謝罪》に対する《承認》

(12) (遅れて謝る友人に) 大丈夫、大丈夫。
[言い換え] 気に病む必要はない
[文脈否定] 聴者の「遅れて迷惑をかけてしまった」という心配要素を否定している
[ポライトネス] 聴者の心理的負担を軽くし、借りを小さくしてしまう（話者の N FTA）
聴者は話者に借りを小さくさせたという負い目を感じる（聴者の N FTA）

⑨ 《感謝》に対する《承認》

(13) (お金を貸したことに対してお礼を言う友人に) 大丈夫だよ。

[言い換え] 負担に思う必要はない

[文脈否定] 聴者の「借りて迷惑をかけてしまった」という心配要素を否定している

[ポライトネス] 聴者の心理的負担を軽くし、借りを小さくしてしまう (話者の NFTA)

聴者は話者に借りを小さくさせたという負い目を感じる (聴者の NFTA)

「大丈夫」の新たな用法は、辞書においては俗語扱いされているのが現状ではあるが、配慮機能が強く表れる表現の用法は次第に慣習化していく傾向にあるため、いずれ定着し、正用として認知されるようになると思われ。図2は「大丈夫」の原義からポライトネスへの移行のプロセスを図式化して示したものがある。原義とポライトネスとの関係性から、大きく①非配慮、②配慮拡張、③配慮特化の3種類に分類することができる。原義が完全に喪失した【近年見られる新たな用法】は、まさに配慮機能に特化した用法ということである。そして、このような用法の慣習化は、「大丈夫」が配慮表現であることを示唆する。

図2 「大丈夫」の原義とポライトネスとの関係性

	原義	ポライトネス	分類
【従来の用法】 この建物は地震が来ても <u>大丈夫</u> です	危なげのない しっかりしている		=①非配慮
	↓		
【変化した用法】 お身体は <u>大丈夫</u> ですか	問題・心配ない	緩和	=②配慮拡張
	↓	↓	
【近年見られる新たな用法】 ⁽³⁾ (申し出に対して) <u>大丈夫</u> です (不要) 試着しても <u>大丈夫</u> ですか (諾 or 否) (試着しても) <u>大丈夫</u> です (諾)	低程度で 問題・心配ない	緩和	=③配慮特化

5. 「大丈夫」の使用頻度調査

5.1. 調査概要

本研究では2017年6月26日から7月5日にかけて、10代から50代以上の日本語母語話者を対象に「大丈夫」についてアンケート調査を行った。調査方法は、前章で分類した13種類の発話機能について、発話の相手(親疎関係)によって「大丈夫」「いい」をどの程度使うと認識しているか、「よく使う/時々使う/使わない」から回答してもらった。有効回答は、男性84名、女性247名、計331名である。

『学研現代新国語辞典』第五版(2012)、『三省堂国語辞典』第七版(2014)、『現代国語例解辞典』第五版(2012)には、「大丈夫」が「よろしい」「よい」の意味で使われていると記述されている。一方、金田一(2013)は「いい」は積極的な肯定であるのに対して、「大丈夫」は否定的な意味合いを持っており、「危険ではない、問題ではない、心配ではない、悪い状態ではない」といったマイナスではない、ほどほどの肯定であると述べている。近年見られる「大丈夫」は、心配要素の程度が薄らいでいるため、「いい」を用いる場面で

も「大丈夫」が使われるようになったのではないだろうか。したがって、アンケートでは「いい」と「大丈夫」の使用頻度を比較し、各機能における心配要素の程度について考察する。

また、発話の相手との親疎関係によって使用頻度に違いが見られるかという点も併せて調査を行う。親疎関係は、発話の相手が家族・友人の場合を「親」とし、先輩・先生・上司・見知らぬ人の場合を「疎」とした。13種類の機能それぞれの親疎関係を見るため、1つの機能につき「親」（設問番号奇数）と「疎」（設問番号偶数）の場合を調査した。

設問の発話機能は以下の通りである。設問①から⑧は疑問文における「大丈夫」で、設問①から⑧は平叙文における「大丈夫」である。

- | | | |
|-------------|-------------------|-------------------|
| ① 《許可要求》【親】 | ① 《許可》【親】 | ⑨ 《助言》に対する《拒否》【親】 |
| ② 《許可要求》【疎】 | ② 《許可》【疎】 | ⑩ 《助言》に対する《拒否》【疎】 |
| ③ 《依頼》【親】 | ③ 《協力》【親】 | ⑪ 《勧誘》に対する《拒否》【親】 |
| ④ 《依頼》【疎】 | ④ 《協力》【疎】 | ⑫ 《勧誘》に対する《拒否》【疎】 |
| ⑤ 《提供》【親】 | ⑤ 《提供》に対する《拒否》【親】 | ⑬ 《参加》【親】 |
| ⑥ 《提供》【疎】 | ⑥ 《提供》に対する《拒否》【疎】 | ⑭ 《参加》【疎】 |
| ⑦ 《提供要求》【親】 | ⑦ 《協力》に対する《拒否》【親】 | ⑮ 《謝罪》に対する《承認》【親】 |
| ⑧ 《提供要求》【疎】 | ⑧ 《協力》に対する《拒否》【疎】 | ⑯ 《謝罪》に対する《承認》【疎】 |
| | | ⑰ 《感謝》に対する《承認》【親】 |
| | | ⑱ 《感謝》に対する《承認》【疎】 |

5.2. 調査結果

まず、「いい」と「大丈夫」の使用率を比較し、心配要素の程度について考察する。以下は、「いい」と「大丈夫」の使用率をまとめたグラフである。グラフの横軸は設問番号で、縦軸は回答者の割合を示している。図3は疑問文における「大丈夫」、図4は平叙文における「大丈夫」のグラフである。○は「よく使う」「時々使う」と回答した人で、×は「使わない」と回答した人である。

図3 「いい」と「大丈夫」の使用率【疑問文】

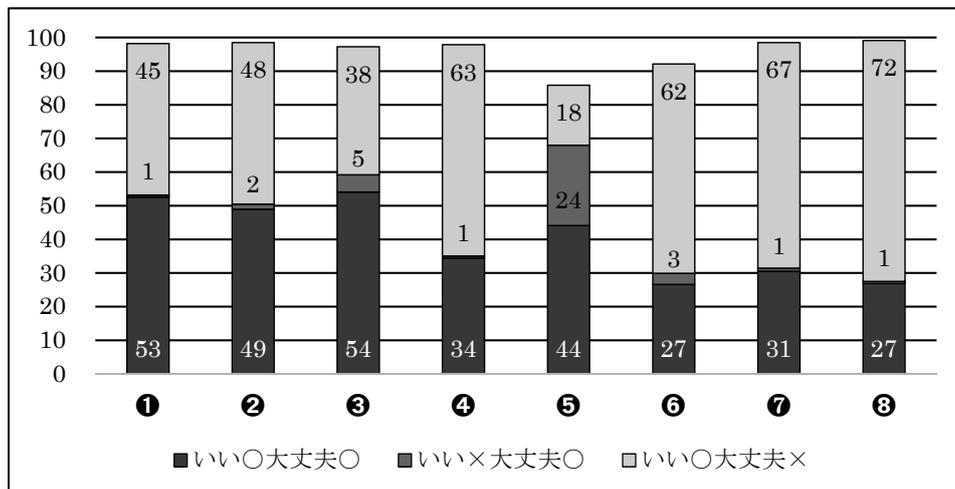
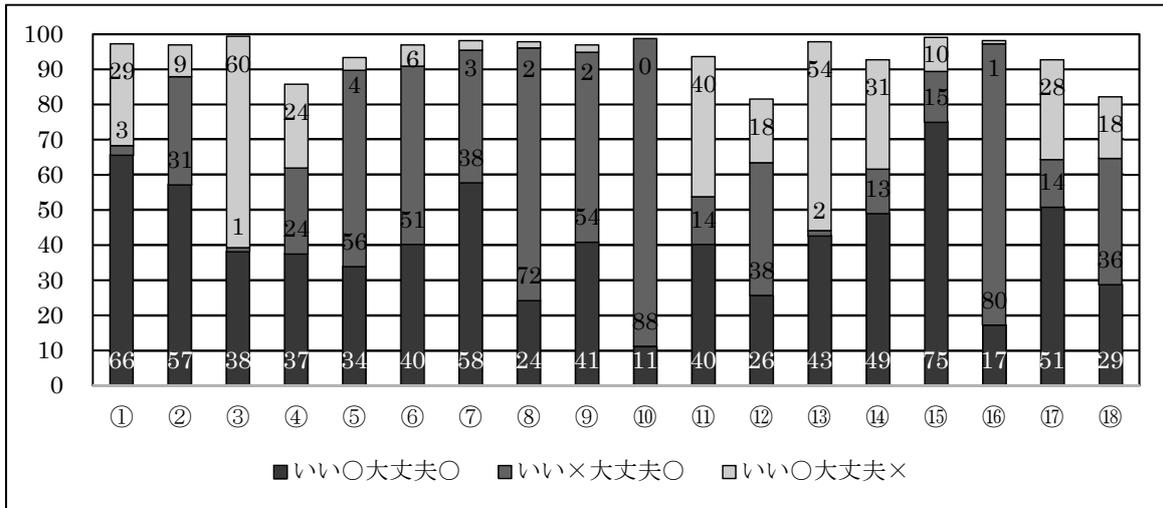


図4 「いい」と「大丈夫」の使用率【疑問文】



調査の結果は以下の通りである。

- ・心配要素の程度が強い機能（「大丈夫」の使用率が70%以上で、「大丈夫」>「いい」）

②《許可》【疎】

⑤-⑥《提供》に対する《拒否》

⑦-⑧《協力》に対する《拒否》

⑨-⑩《助言》に対する《拒否》

⑯《謝罪》に対する《承認》【疎】

- ・疑問文における「大丈夫」は、親しい人に用いられる傾向がある

- ・平叙文における「大丈夫」は、親しくない人または目上の人に用いられる傾向がある

これは、目上の人に対して「よろしいです」と許可をしたり、「結構です」と断ったりすることに抵抗を感じる人が多いことから、「大丈夫」を代わりに用いていると考えられる。そのため、平叙文では目上の人に対して「大丈夫」の使用頻度が高くなった。

次に、年代別の「大丈夫」の使用率について調査結果を述べる。以下は、「大丈夫」を「よく使う」「時々使う」と回答した人の割合を年代別にまとめた表である。

表1 年代別の「大丈夫」の使用率

	10代 (76名)	20代 (176名)	30代 (16名)	40代 (20名)	50代以上 (43名)
疑問文「大丈夫」の使用率	56%	52%	51%	39%	36%
平叙文「大丈夫」の使用率	83%	80%	72%	62%	60%
全体の使用率	74%	71%	65%	55%	52%

表2 年代別の「大丈夫」の使用率（各設問）

	発話機能【親疎関係】	10代	20代	30代	40代	50代以上
①	《許可要求》【親】	61%	56%	63%	35%	35%
②	《許可要求》【疎】	59%	55%	44%	45%	23%
③	《依頼》【親】	62%	63%	56%	55%	44%
④	《依頼》【疎】	42%	36%	25%	30%	26%
⑤	《提供》【親】	74%	74%	94%	50%	30%
⑥	《提供》【疎】	34%	31%	19%	20%	28%
⑦	《提供要求》【親】	36%	32%	38%	10%	28%
⑧	《提供要求》【疎】	39%	27%	31%	5%	16%
①	《許可》【親】	78%	75%	63%	40%	40%
②	《許可》【疎】	91%	93%	81%	75%	70%
③	《協力》【親】	46%	41%	38%	15%	33%
④	《協力》【疎】	82%	66%	50%	40%	26%
⑤	《提供》に対する《拒否》【親】	96%	96%	88%	65%	65%
⑥	《提供》に対する《拒否》【疎】	96%	98%	88%	70%	63%
⑦	《協力》に対する《拒否》【親】	99%	100%	88%	85%	79%
⑧	《協力》に対する《拒否》【疎】	99%	98%	94%	85%	91%
⑨	《助言》に対する《拒否》【親】	95%	97%	100%	90%	86%
⑩	《助言》に対する《拒否》【疎】	100%	99%	94%	95%	100%
⑪	《勧誘》に対する《拒否》【親】	68%	61%	38%	15%	23%
⑫	《勧誘》に対する《拒否》【疎】	75%	71%	69%	30%	26%
⑬	《参加》【親】	42%	44%	44%	65%	37%
⑭	《参加》【疎】	70%	64%	56%	50%	44%
⑮	《謝罪》に対する《承認》【親】	95%	89%	94%	90%	79%
⑯	《謝罪》に対する《承認》【疎】	100%	98%	88%	100%	91%
⑰	《感謝》に対する《承認》【親】	68%	69%	56%	50%	47%
⑱	《感謝》に対する《承認》【疎】	79%	68%	56%	30%	44%

調査の結果は以下の通りである。

- ・「大丈夫」の使用率は10代、20代が最も高く、年代が高くなるほど低下していく
- ・どの年代においても、疑問文より平叙文に「大丈夫」が用いられやすい傾向がある
- ・定着している機能（すべての年代において「大丈夫」の使用率が70%以上）

② 《許可》【疎】

⑦-⑧ 《協力》に対する《拒否》

⑨-⑩ 《助言》に対する《拒否》

⑮-⑯ 《謝罪》に対する《承認》

6. まとめ

本稿では、「大丈夫」という言葉がどのような発話機能において用いられているか、語用論の観点から分類した。そして、新たな用法の「大丈夫」を、自らの内省においてどの程度使用していると認識しているか意識調査を行い、「大丈夫」という言葉の使用認識の実態を明らかにした。

調査の結果、「大丈夫」は、文脈上にある心配要素を否定する文脈否定語であるため、相手が自分に対して負っている「失礼かもしれない」「迷惑かもしれない」といった心的負担が大きい場合に、「大丈夫」を用いやすいことがわかった。そして、その心的負担である心配要素を否定することで相手に配慮しているのである。本調査では、心配要素の程度が比較的強く（「いい」<「大丈夫」）、用法が定着しているといえる（すべての年代において使用率が70%以上）配慮特化した機能を明らかにした。配慮特化したと言える機能は以下の4つである。

- (1)あまり親しくない人または目上の人への《許可》
- (2)《協力》に対する《拒否》
- (3)《助言》に対する《拒否》
- (4)あまり親しくない人または目上の人への《謝罪》に対する《承認》

また、「大丈夫」の新たな用法は若者を中心に用いられており、年代が高くなるにつれて「大丈夫」を用いる人が少なくなっていることが要因の一つに挙げられる。例えば、「結構です」は応答として用いられるが、「レジ袋は結構ですか」という使い方はしない。また、「レジ袋はよろしいですか」と問われたときに、「はい、よろしいです」と答えることはない。しかし、「大丈夫」は、問いかけとしても応答としても用いることができる便利な言葉であるため、多用されやすいのではないだろうか。若者が「大丈夫」を多用する要因は、配慮としてだけでなく、敬語や言葉の使い方に自信がないため、簡単に使える「大丈夫」という言葉で代用しているとも言える。

7. 今後の課題

本調査では、自らの内省における「大丈夫」の使用頻度の意識調査を行った。しかし、実際の使用率と近い結果を得るには、自身が普段用いている言葉を記述させるような自由回答式の調査、あるいは、実際に「大丈夫」が発話されるような場面における発話の実態調査を行う必要がある。また、本調査では対象者が10代から20代に偏ったこともあり、世代ごとの使用率の比較も十分なものとはいえなかったため、より詳細に研究を進めることを今後の課題とする。

注

- (1) Negative Face-Threatening Act（ネガティブフェイス脅かし行為）
- (2) Positive Face-Threatening Act（ポジティブフェイス脅かし行為）
- (3) 『大辞泉』第二版（2012）に記載されていた新たな用法

参考文献

- 尾崎喜光 (2016) 「『大丈夫です』の用法の拡大に関する研究」『清心語文』(18) ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会、pp. 64-52
- 菊池律之 (2018) 「日本語母語話者と日本語学習者の使用表現の差異の分析：日本語教育への応用のために—『大丈夫です』『～ぐらい』『かぶる』を中心に—」『天理大学学報』(69) 天理大学、pp. 1-15
- 金田一秀穂 (2013) 『金田一秀穂の日本語用例採集帳』学研教育出版
- 塩田雄大・井上裕子・滝島雅子 (2015) 「“お赤飯” “ひと段落” “ロケットが打ち上がる” はおかしいですか～2014年「ことばのゆれ調査」から②～」『放送研究と調査』(65) NHK放送文化研究所、pp. 38-63
- 竹下浩子 (2014) 「『大丈夫』をめぐる考察」
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』くろしお出版
- 山下早代子 (2013) 「今どきの『大丈夫です』—その使用実態(2013)～「大丈夫です」は若者とばか?～」『明海日本語』(18) 明海大学日本語学会、pp. 285-312
- Brown, P. and S. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press. (邦訳：田中典子監訳 (2011) 『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』研究社)

辞書・辞典

- 金田一春彦・金田一秀穂 (編) (2012) 『学研 現代新国語辞典』第五版、学研教育出版
- 林巨樹・松井栄一 (監修) (2016) 『現代国語例解辞典』第五版、小学館
- 松村明 (監修) (2012) 『大辞泉』第二版、小学館
- 見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大 (編) (2014) 『三省堂 国語辞典』第七版、三省堂

(遠藤李華、創価大学大学院生、e16m3102@soka-u.jp)